

アッカーマンシア・ムチニフィラ凍結乾燥粉末

Cat. No. PRBT-101-CEZ05

Lot. No. (See product label)

はじめに

説明

アッカーマンシア・ムチニフィラは、卵形のグラム陰性、密着性細菌であり、人間の腸内に共生しています。この細菌は不動で、胞子を形成しません。アッカーマンシア・ムチニフィラは2004年に人間の腸から初めて分離され、小腸と大腸の両方に存在し、特に粘液が最も多く生成される盲腸で高いレベルが見られます。A. ムチニフィラは人間や他の哺乳類の腸内細菌叢の3%から5%を占めています。さらに、A. ムチニフィラは母乳や授乳中の女性の乳腺組織にも見出され、母乳中のオリゴ糖をエネルギー、炭素、窒素の供給源として利用します。この細菌は母乳から乳児に垂直伝播され、早期の乳児期（約1ヶ月）に腸内細菌叢の発達に寄与し、成人期にはその豊富さが大幅に増加します。グローバルデータセットに基づくプール分析では、A. ムチニフィラは評価されたコホートの77.73%に存在し、西洋の集団からのコホートでは81.81%に存在することが示されました。

用途

AKKは病気の軽減において重要な役割を果たします 1 腸疾患 AKKは腸の免疫機能を改善することで知られており、正常な腸機能の維持に重要です。AKKはさまざまな腸疾患に与えて改善効果があることがわかっています。IBS、IBD、虫垂炎、アレルギー性下痢などの腸の炎症性疾患を持つマウスでは、AKKの豊富さが著しく減少し、糞便移植後にAKKの数が著しく増加し、症状が大幅に改善されます。 2 肝疾患 腸-肝軸は腸、微生物、肝臓を密接に結びつけることで宿主の健康を調節する役割を果たします。高脂肪食（HFD）によって誘発された脂肪肝マウスでは、腸の透過性が乱れ、腸のバリア機能が不均衡になり、体内でのAKKの豊富さが減少します。AKKの経口投与は腸内のAKKの豊富さを回復し、IL-6の発現を抑制し、アラニンアミノトランスフェラーゼのレベルを増加させ、腸内フローラの多様性を回復させ、肝障害を軽減し、肝免疫を強化し、脂肪肝の症状を改善します。 3 神経障害 AKKは人間の神経系に作用し、さまざまな神経疾患を改善することができます。神経性疾患の発達は腸内フローラの増殖に関連していることがわかっており、神経性疾患を持つマウスにAKKを移植することで、マウスの状態が著しく改善され、マウスの死亡率が低下し、寿命が延びます。AKKの豊富さはパーキンソン病、てんかん、その他の神経障害の発生率と負の相関関係にあります。 4 代謝疾患の調節 代謝障害におけるAKKの研究は主に肥満の代謝異常に焦点を当てており、AKKは糖尿病、高血圧、高血糖などの一連の肥満誘発疾患に良い効果を示し、肥満を改善します。 5 癌の改善 AKKは体内でのプログラムされた細胞死受容体阻害剤の含有量と正の相関関係があり、非小細胞肺癌の症状を改善することができます。AKKは宿主の免疫チェックポイントに与える反作用をブロックすることで癌細胞の抑制活性を回復させることが期待されており、これを利用して免疫療法を通じて体の抗腫瘍活性の調節を目指すことが期待されています。

製品情報

種	アッカーマンシア・ムチニフィラ
由来	人間
外形	オフホワイトからベージュの粉
活性	2000億TFU/g

使用法とパッケージング

包装	1kg アルミホイル & PEバッグ
----	--------------------

保管・発送情報

保存方法	湿気や直射日光を避け、室温でしっかりと閉じた容器に保管した場合、少なくとも24ヶ月。
------	--

